

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

群馬県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	白沢村立白沢小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	2	1	1	11	19
児童数	46	42	48	29	48	34	2	249	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び自ら考える児童の育成
- 算数科における個に応じた指導の工夫・改善を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年・算数

算数は習熟度の差が表れやすい教科であることや、全職員共通理解のもとに焦点を絞った実践的研究に取り組みたいとの考えから、全学年の算数で実施することとした。また、昨年度からの研究や児童の実態調査等を継続していくことで、さらに研究を深めたいと考えた。

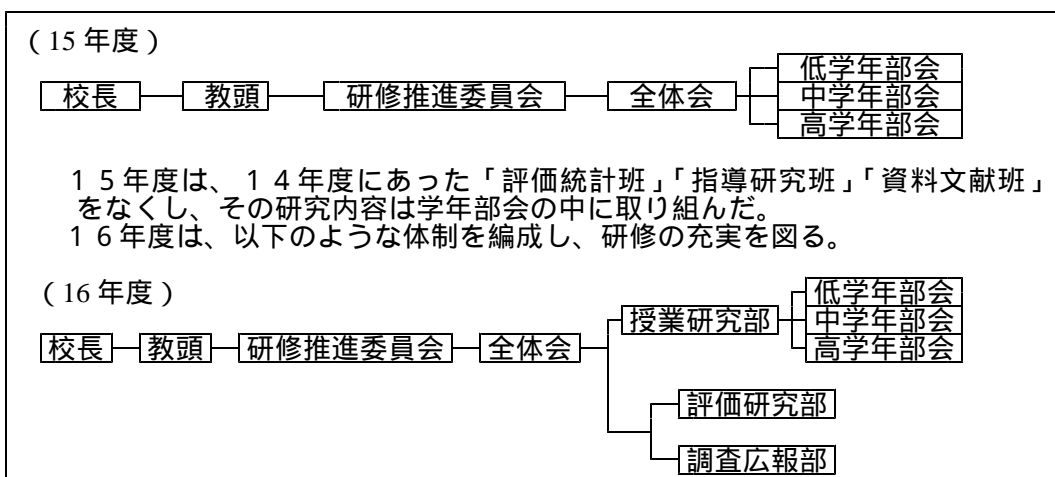
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 「自ら学び自ら考える児童の育成 ～個に応じた指導の工夫・改善を通して～」 ○ 研究の見通し <ol style="list-style-type: none"> 1. 少人数指導やTT指導などきめ細かな指導による基礎基本の定着を図ることによって学力の向上が望めるであろう。 2. 少人数指導やTT指導など指導方法や指導体制の工夫改善により、基礎基本の定着を図れるであろう。 3. きめ細かな指導や個々の児童の習熟度に応じた発展的、補充的な指導を行えば、自ら学び自ら考える児童が育成されるであろう。 ○ 研究内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態把握、文献研究や本校が目指す児童像の確認 ・学習に集中して取り組めるよう一人一人を生かした指導の工夫 ・算数科におけるきめ細かな指導を行うための少人数指導やTT指導の工夫改善 ・授業実践の記録や定期的な検証と評価の研修 ・発展的な学習や補充的な学習、繰り返し学習の指導の工夫 ・作成した年間指導計画の見直しと評価規準表の作成 (年間指導計画とのかかわりを考えて) ・家庭学習を定着させるための工夫 ・中学校との連携の在り方について ・コンピュータ研修(Webページ作成)
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 「自ら学び自ら考える児童の育成 ～算数科における個に応じた指導の工夫・改善を通して～」</p> <p>研究の見通し</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低学年では単元の計画に応じてTT指導を、中学年ではTT指導から少人数指導へと移行することで個々の児童の習熟度に応じたきめ細かな指導を行い、高学年では、習熟度や課題に応じたコース分けにより、きめ細かな指導を行う。各学年ともにきめ細かな指導で基礎基本の定着を図ることにより、学力の向上が望めるであろう。 2. 少人数指導やTT指導など指導方法や指導体制の工夫改善により、基礎基本の定着を図れるであろう。 3. きめ細かな指導や個々の児童の習熟度に応じた発展的、補充的な指導を行えば、自ら学び自ら考える児童が育成されるであろう。 <p>○ 研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① きめ細かな指導を行うための指導方法、指導体制の工夫改善について <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導・TT指導の工夫改善 ・算数科における効果的な少人数授業をするための指導法の工夫、学習形態や学習指導の研究 ・授業実践の記録や定期的な検証と評価の研修 ・家庭学習を定着させるための工夫 ② 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための学習教材について <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた補充教材作成とその利用 ・課題別、習熟度別グループの実態に応じた学習教材の工夫 ・発展的な学習や繰り返し学習の指導の工夫 ③ 作成した年間指導計画の改善と評価規準表の作成(年間指導計画とのかかわりを考えて) ④ 中学校との連携の在り方について ⑤ コンピュータ研修(Webページ作成)
----------------	--

平成 16 年度	<p>○ テーマ 「自ら学び自ら考える児童の育成 ～算数科における個に応じた指導の工夫・改善を通して～」</p> <p>○ 研究の見通し</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童の実態や学習内容に応じて多様なコースを設定し、きめ細かな指導や個々の児童の習熟度に応じた発展的、補充的な指導を行えば、基礎基本の定着を図れるであろう。 2. 少人数指導やTT指導など指導方法や指導体制の工夫改善を図り、個に応じた手だてを講じた授業を行うことにより、児童の「わかる・できる」喜びを高めることができるであろう。 3. 学年担当者が計画的、継続的に打ち合わせを行い、教材研究を深め、共通理解のもとで指導することにより、児童理解が深まり、個に応じたきめ細かな指導が図れるであろう。 <p>○ 研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① きめ細かな指導を行うための指導方法、指導体制の工夫改善について <ul style="list-style-type: none"> ・算数科における効果的な少人数授業やTT授業をするための指導法の工夫、学習形態や学習指導の研究 ・授業実践の記録や定期的な検証 ・基本的な学習習慣の確立 ② 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発について <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた補充的な学習教材作成とその利用 ・課題別、習熟度別グループの実態に応じた学習教材の工夫 ・発展的な学習の指導の工夫と教材作成 ③ 評価について <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価能力の育成を図る工夫 ・支援に生かす評価の在り方 ④ 中学校との連携の在り方について ⑤ 情報発信について <ul style="list-style-type: none"> ・Webページ作成及び学校・学年便りでの情報発信 ・公開授業、授業参観の計画的な実施
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・研究推進体制については、推進委員会 全体会 学年部会という体制で進めたが、少人数指導担当を中心にして担当学年の実践的研究が深められた。また、学年の打ち合わせ会議を時間割の中に組み入れたことで、教材研究、評価項目の設定や指導形態の決定、進度や児童の情報確認等を計画的、継続的に行うことができた。
- ・TT指導については、T1・T2を輪番制で行い、指導計画を主になって立てたT1が全体の授業を進め、T2が個の補助指導をしたり必要に応じて補助説明や板書をしたりするようにした。それにより、個々の実態が把握しやすく、個に応じた支援を行うことができた。
- ・少人数指導については、3年生以上は学級内習熟度別指導を基本にしなが、2学級3コースに選択の場を広げたり、課題別コースにしたりと多様な形態をとった。それにより、単元の学習内容や児童の実態に応じた指導を行うことができた。
- ・コース選択については、児童がコースを選択する際、その単元の学習内容やコース別の学習の進め方をおおまかに説明したプリントを基にオリエンテーションを行い、レディネステストも参考にしながら、自分でコース選択できるようにした結果、児童の選択能力も高まった。また、そのプリントに選択したコースを記入したものを持ち帰ることで、保護者の理解も得ることができた。
- ・教材開発については、具体物を用いた算数的活動や探究的な算数的活動にかかわる教材、課題把握や習熟のためのゲーム教材などで、実態に合わせた教材を作成した。
- ・指導と評価の一体化については、名簿や座席表で評価項目をチェックしたり学習の様子を記録しておいたりするようにしたが、次時の指導に生かす点からも有効であった。また、高学年では、授業終了時に、ノートに簡単な自己評価を書かせるようにしたが、自ら記録することで児童自身は次時の学習に生かすことができ、指導者も個々の取組の記録を見ることで次の指導に生かさせた。
- ・学力検査の分析と活用については、昨年度末に観点別到達度学力検査(CDT)を行い、その結果を全職員で分析、検討し、今年度の研修計画に生かすようにした。今年度末にも同検査を実施し、比較、分析を行い、客観的に評価する。また、市販の標準化されたテストの累積結果も比較、検討し、指導に生かすようにしている。

2. 今後の課題

- ・今年度は、指導方法と指導体制の工夫・改善に重点を置いて研究を進めてきたが、「教材開発」と「指導と評価の一体化」に関する研究があまり進められず、課題が残った。次年度はその点に重点を置いて研究に取り組みたい。そのために研究推進体制の見直しを行い、学年部会と並行して、評価や教材についても、部会で中心になって進められるような組織作りとする。
- ・学習教材については、習熟度別に視点を当てて作成し、補足的な学習や発展的な学習の推進を図る。
- ・評価項目の作成、見直しを行い、一人一人の学習状況を適切に評価することで、指導と評価の一体化を図る。また、発達段階に即して児童評価能力の育成を図る。
- ・基本的な学習習慣が身に付きつつはあるが、まだ個別指導を要する児童も見られる。本校の「学習の約束」を基本に定着を図る。
- ・Webページを全職員で分担し作成したが、学力フロンティアスクールとして研究成果の普及活動としては不十分であったので、さらに積極的に情報発信ができるようにする。
- ・中学校との連携として研究授業の参観等ができたが、授業研究や情報交換の場を作るなどさらに連携を深めていく。

学力等把握のための学校としての取組

- 定期的な学力検査の実施（CDT）と分析
年1回 2月実施、学年末に分析
目的 ・学校全体の学力の状況をつかむ。
・到達不十分の児童が多い学習内容をチェックして、指導強化に役立てる。
・学期テストのデータと統合することで、1年間の学力の推移をみる。
- 定期的な単元テスト、学期テストの実施と分析
単元毎、学期毎に実施、学年末に分析
目的 ・単元毎の定着状況をつかみ指導強化に役立てる。
・学校全体の学力の状況や個々の児童の状況を知り、指導強化に役立てる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 公開授業

11月7日 算数授業研究会 単元名「面積の求め方を考えよう」
教室：5年A組、B組、コンピュータ室

成果

- ・習熟度や学習速度を考慮し、追究方法への興味関心を重視した少人数指導を行った。問題解決の過程では、多様な児童の実態や興味・関心に応えるために、「方眼コース」「折り紙コース」「パソコンコース」としたが、自分で選択したコースで、児童は意欲的に自信をもって学習に取り組むことができた。
- ・コンピュータの活用は、巧遅によらずイメージ通りに自分の思考を表現でき、修正も容易であるので、求積方法を見いだすときに使ったり、学習のまとめに使ったりしたが、試行錯誤がしやすく有効であった。
- ・コースの実態に応じて、方眼用紙、無地の図形、コンピュータ画面などを用いた探究的な算数的活動を取り入れたことで、意欲的に自力解決ができた。
- ・各コースとも、児童の反応の予想と、それぞれに対する対応を考えていたので、個に応じた指導がやりやすかった。

課題

- ・「おおむね満足できる状況」「十分満足できる状況」それぞれの評価項目について、子どもの立場や視点で授業ができるようさらに練り合う必要があった。指導と評価の一体化という観点から、評価項目の精度を高めていかなければならない。

(2) Web ページ

ホームページアドレス

<http://www.vill.shirasawa.gunma.jp/shirasyo/index.htm>

学力向上フロンティアスクールにかかわる公開内容

- ・ 研修計画書
- ・ 校内研修構想図
- ・ 公開授業の案内
- ・ 2年生の授業（T・T指導の実践例）
- ・ 4年生の授業（課題別少人数指導の実践例）
- ・ 5年生の授業（習熟度を加味した課題別少人数指導の実践例）

(3) 研究紀要の作成

連携校である白沢中学校と合同で研究紀要を作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無